

平成30年度 入学式 学長式辞

滋賀県立大学は、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーとし、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する、人が育つ大学」を掲げて、開学24年目を迎えました。2018年度から始まる第3期中期計画では、琵琶湖を囲む滋賀の地をキャンパスとして、地域貢献大学のリーディングモデルを目指します。

大学での4年間、自ら選んだ学部、学科で、思う存分、自らを磨いてください。皆さんの回りには、同じ分野を学ぼうとする大勢の仲間がいます。志を同じくする仲間です。自らを磨くには、仲間同士がお互いに尊重し合い、高め合うことが大切です。相手の良いところは褒め、見習い、また、足りないところは助け合うことにより、昨日の自分より今日の自分が成長していることを実感できるように心がけてください。みずから発信し、お互いの関わりの中でコミュニケーションを取り、理解し合うことにより、切磋琢磨できる仲間を作ることが大切です。

また、4年間の学びでは、専門分野だけに閉じこもらずに、多様な学びを経験されることを期待しています。学生時代は、これまでよりも多くの自由になる時間があります。時間は、誰にも平等です。この4年間の時間をどのように使うかによって、皆さんの将来における人生の広がりが大きく異なってきます。

本学には、地域での学びとして、学生の自主活動である近江楽座があります。地域へ出かけ、自らの興味ある課題を見つけ、地域の人々との関わり合いの中から、課題解決を目指す取り組みです。昨年度は、22のプロジェクトが実施されました。是非、皆さんも興味あるプロジェクトに参加して、地域での学びを体験してください。

また、本学では、グローバルの視点を持つことが重要と考え、短期や長期の海外留学を奨励しています。是非、海外での学びを経験し、広い視野から物事を俯瞰できる能力を身につけてください。その準備として、興味を深めるために本学の図書館を活用されることをお勧めします。皆さんに読んで頂きたい書籍が沢山あります。

世界においては、急速な技術革新やグローバル化の進展など、日本においては、少子高齢化、東京一極集中と地方の過疎化などが進展しています。これらの課題に加えて、皆さんが活躍される将来の社会では、人工知能が人間の能力を超えることも予想されています。そのような社会において、将来においても持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え、判断し、実践できる力をつけて頂きたいと考えます。

滋賀県立大学 学長 廣川能嗣